
ひと、ち、したい

いっきまっせ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひと、ち、したい

【コード】

N8274Q

【作者名】

いきまっせ

【あらすじ】

戦場に生きる人々の記録

はじめ

『ザ、ザ、ザ、ザ、ザ、ザ、ザ、ザ』

『ガガガガガガガガ』

『タッタッタッタッタッタ』

『ドーーーーーン』

油、砂、土、火薬、火、血、色々な匂いの混ざる戦場

耳を貫く音、数えられないほどの人々、数えられないほどの死体、

減っていく生きた人々

横では頭を打たれた死体

後ろは右手がもげてシヨック死した死体

前のほうでは火炎放射器で焼かれ騒ぐ兵士

通信機が鳴る

「・・・32小隊・退・・・¥¥16・・・全滅・・・¥¥空

爆・・・請¥¥19・隊本・・・撤退」

途切れ途切れ聞こえる情報、遠くで聞こえる人の声

「撤退、撤退、撤退」

1つの人の影が近寄ってくる、そして、話しかける

「大丈夫か、ココはもう死守不可能だ。いったん撤退して本部と合流する。歩けるか？」

「ああ」

そこに、チヌークが降りてくる、それに乗り込みチヌークが飛び立つ。

につき

2028 . 8 . 9 9 : 4 8

今日、上陸作戦が行われる

死ぬか、死なないかは自分しただ

2028 . 8 . 9 13 : 18

上陸用の小型ボートに乗った

大体、16名ほど乗れるボートだ
今、エンジンがかけられ発艦する

2028 . 8 . 9 13 : 52

(. の所は海水が付き読めなくなっている)

も . すぐ岸に着 .

17人乗っ . いたが4 . やら . .

横の通 . 兵よると、20 . 0機発艦 . . たが

4 . 0ほどや . れたらし .

銃にマ . . . ンを装 . しりロード . .

コ . が最後の . . とな . だろう

そ . て、コレが生き . 証

この作戦は失敗に終わり

上陸した兵士達は全滅、誰も帰らなかったと言っ

この日記はボートの機銃兵から渡されたものである

しゅらば

「GO GO GO」

20機ほどのヘリから、1機8人程度ごとに降下していく
降下中に打たれる者、ヘリごと落とされる部隊、無事に降りても下
の敵にやられる者
今、俺も降下する

「よし。行くぞ」

ロープをフックにかけて降下する

対空砲の砲撃の光と炎が闇夜を照らす

下に着地すると、一回部隊ごとに集合する

俺達の任務は地上部隊の攻撃支援、基本はこの基地の防御壁を内側
から壊す事だ

「よし、これから 部隊と合流する。やられたものは見捨てる、自
分もやられる」

「サーイエッサー」

ココからは戦闘というよりも、走って敵の弾を避けるといったほうが正しいかもしれない

『タッタッタッタッタッタッタ』

「ぐはぁっ」

「助けてくれ、右手が、右手が」

軽快な発砲音、あちらこちらから悲鳴などが聞こえる
構わず走り続ける

部隊、いわゆる爆破部隊との交流
その部隊の爆弾設置を護衛する

「敵だ、ココを死守する」

歩兵はまだいいが、戦車、一番やつかいなのが、バツカ兵だ
攻めるときは歩兵にはあまり関係ないが、死守するときにはあまりあ
いたくない
来たら速攻倒すべき相手だ

「もうすぐ終わる、あと少しだ。よし、終わった。早くここから離
れる」

一瞬、何か光るものを見たような気がした
気付くと俺の頭から、何か垂れて来ているのがわかった
そこで俺はスナイパーに、頭を打たれているのがわかった
聞こえるc4のタイマー音、倒れる俺、包み込む炎
死んだ・・・

わんしょつと

サイトを敵にあわせる

トリガーに指をかけ引く

衝撃とともに金属の弾が飛んでいく

敵に当たり、倒れる

そのの繰り返し、それが仕事

毎日出る血は、空弾よりはるかに多い

そう、毎日、毎日、毎日・・・

死ねば平和、死ねば敵味方関係がない

だが、戦いで死ねば悲しみが残るだけ

死ねば楽かもしれないが、俺は死なない

待っている人はいない、でも、生きる

自分の存在価値を表すため

戦場は綱渡り、踏み間違えれば落ちる

だから、一発、一発を大切にする

踏み間違えないように・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8274q/>

ひと、ち、したい

2011年10月8日18時16分発行